

個票 4 後背地との連続性の確保

〔池 1(1)③1-1 池 2(2)②14-1 池 2(3)①2-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
	種の多様性への配慮		野生生物の生息・生育環境の保全・創出 野生生物の移動を阻害する要素の排除・抑制
配慮事項	エコトーンの重視		
	多様な水辺環境の保全・創出		
	野生生物の移動ルートへの確保		
配慮事例	水域と陸域の接点での多様性の確保		
	水域と陸域、異なる水域間での連続性の確保		
	小動物の脱出・移動可能な側溝などによる脱出・移動ルートの確保		
内容	<p>●後背地との連続性の確保</p> <p>【解説】</p> <p>ため池に生息・生育する生物の中には、ため池だけに生息・生育するのではなく、後背地の樹林や草地に移動するものがあります。このような生物に配慮するために、後背地との連続性を考慮し、後背地の改変や水際と後背地との分断に配慮する必要があります。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●湿地・沿岸域の保全</p> <p>ため池の岸辺の湿地や流入部の沿岸域は、多様な生物が生息・生育している場合が多いことから、そのような環境はできるだけ保全します。</p>		
	<p>湿地保全エリアにおける配慮対策選定の例 (保全対象：カスミサンショウウオ)</p>		

●水際の緩傾斜化

①ため池と後背地を移動する小動物への配慮として、水際は緩傾斜とすることが必要です。

②緩傾斜にできない場合には、護岸の一部に小動物の移動が可能なスロープを設けることも検討します。

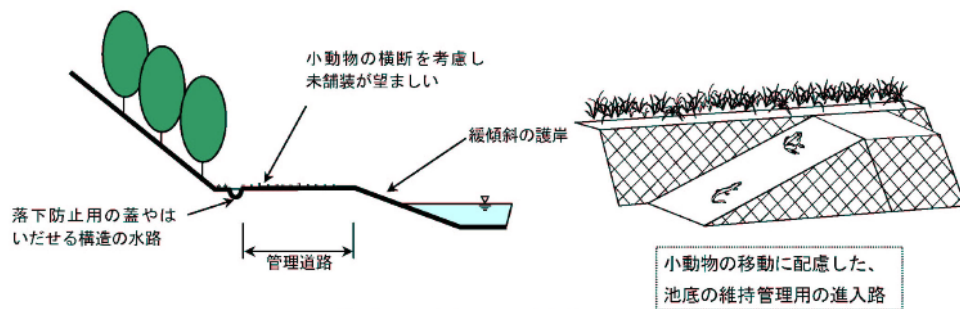
●管理道路・側溝の工夫

①ため池沿いの管理道路や散策路は、アスファルトやコンクリートによる舗装をできるだけ避けます。

②生態系に配慮した舗装材料の使用やわだちの部分のみの舗装などを検討します

③側溝の構造は、蓋をするなど、小動物が落ちない構造を採用します。

【ため池と後背地を移動する小動物への配慮例】



出典：1

【事例】



出典：2

【場所】

兵庫県加古川市 寺田池

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・クサガメなどの小動物の移動経路を確保する工法を採用した。
- ・堤体法面の緩傾斜化
- ・堤体水際から池底に表土を貼り付け、在来植生を復元

留意点

・管理道路の未舗装化については、維持管理作業にかかわるため、ため池管理者や地域住民の意見を踏まえ、合意形成を図る必要があります。

参考資料

- 1 環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き（第2編）」（案）食料・農業・農村政策審議会、農村振興分科会、農業農村整備部会、技術小委員会
- 2 「寺田池のクサガメ保護活動の取り組み」兵庫県農政環境部農地整備課